

【4歳児 11月の事例】

遊びの場が壊れても、保育者に支えられて気持ちを調整する 「お湯、いっぱい入れて、みんなで入ろう」

- ① A児が保育室の段ボールを見つけた。「先生、段ボール使っていい」と聞いて段ボールの周りに積み木を並べて中に入って遊んでいた。保育者が「お風呂みたいだね」と言葉を掛けるとA児は「温泉だよ、そこから入るんだよ」と指さした。それを見ていたB児、C児が「入れて」と言ってやってきた。
- ② A児は「いいよ」と答えたが、段ボールの中でB児とC児がはしゃいだため、段ボールは壊れてしまった。A児は、「あああっ」と声をあげ、そのままじっと押し黙ってしまった。保育者がA児に「大事な温泉が壊れてしまったね。A君は静かに入りたかったんだね」と言葉を掛けるとA児は、こくんとうなずいた。3人はしばらく黙っていた。保育者は段ボールが壊れ、戸惑っているB児、C児に「温泉には手や足を思い切り伸ばして楽しく入りたかったんだね」と声を掛けた。B児、C児は、こくんとうなずいた。
- ③ しばらくして、B児が「もっと大きな段ボールがあるといいな」と言ったので、保育者は「そうだね、そうしたらA君もB君もC君も楽しいね」と応えた。B児は「僕、お母さんに話して探してくる」と言うと、C児は「僕も」と言った。
- ④ 翌日、段ボールが数個集まった。B児は「大きくないけど、たくさんつなげれば何人入ってもいいね」と言った。保育者は「ほんとだね。たくさん温泉がくっついているところみたいだね。A君、これなら壊れないね」と言うと、A児は笑顔になり「うん、あとはお湯だね。お湯はこれにしよう」と水色のタフロープを切って入れた。A児は「お湯、いっぱい入れて、みんなで入ろう」と言うと、C児や周りの幼児も集まってたっぷりのお湯を入れ、温泉遊びを楽しんだ。



幼児の姿から『学びに向かう力』を読み取ると…

【興味・関心、意欲】

①段ボールを使って自分でイメージしたこと
で遊ぼうとした。

【安心感】

②段ボールが壊れたことに
ショックを受けたが、保育者に
気持ちを分かってもらって安堵
した。

【折り合い】

③遊び場を壊してしま
ったが、どうすれば遊
びを続けられるか考
えることができた。

【意欲、満足感】

④より楽しく遊ぶこと
ができるようにアイ
ディアを出して場を
作り変え、みんなでイ
メージを共有し、楽
しく温泉遊びをした。

学びに向かう力

自分の気持ちを
調整する力

粘り強く
取り組んだり
挑戦したりする力

仲間と協調する力

環境の構成のポイント

「友達同士が同じ場で同じように遊べるようにしましょう」

- 4歳児は、仲の良い友達ができ、何でも同じようにしたくなる時期です。同じものを持ちたがり、同じように動かたがり、同じような格好で遊びたがります。そのような時は、遊具の数や種類に気を配り、同じ物を持っていないために疎外感を感じたり、仲間外れになったりすることがないようにしましょう。
- いろいろな友達と同じ場で過ごすことが、遊びの面白さを感じるためには必要になります。友達の発想に触れて、互いに影響し合いながら遊ぶ面白さは何物にも代えがたいものです。幼児たちが気持ちよく安定して遊ぶことができるように遊びの場の広さを考え、扱いやすい材料や用具を準備しておきましょう。



保育者の関わりのポイント

「互いの思いを伝えてイメージや気持ちを分かり合えるようにしましょう」

- 4歳のこの時期の幼児は、同じ場で同じように遊んでいても、それぞれにしたいことやイメージが違います。保育者が一人一人のイメージを捉え、仲立ちをしていくことで楽しく遊ぶことができます。
- 楽しそうだと思うと相手のことを考えずに行動することはよくあります。そのため、険悪なムードになることもあります。互いの違いに気づき、納得し合う経験のできる良いチャンスと捉えて保育者は丁寧かつ穏やかに関わしましょう。
- 幼児は、受け入れてくれる大人がそばにいるとき、安心して自分の気持ちを言葉や行動で表します。そして、相手に対して寛容な気持ちを表したり、多少の我慢をしたりして、自分と考え方に違いがあっても受け入れることができるようになっていきます。



家庭での関わりのポイント

「うまく伝えられない幼児の気持ちを言葉に置き換えましょう」

- 幼児期には自分が楽しみたいという思いが強く出過ぎてしまい、友達の気持ちを傷つけてしまうことがあります。悪気はないのですが、幼児なりのプライドも出てきて、一たびいざこざになると、素直には引き下がれない気持ちが強い場合があります。
- 大人が間に入ってどちらかを身びいきすることなく、穏やかに幼児の気持ちを「〇〇をしたかったんだよね」と言葉に置き換えると、納得して気持ちを調整していきます。幼児は執着しないことが多いので、楽しく遊ぶことができるよう気分を切り替えてあげると早く解決に向かいます。

学びに向かう力を育むための手立て